

## 「大学間連携共同教育推進事業」中間評価結果

連携の種類	分野連携	整理番号	2
取組名称	グローバル社会を担う次世代型獣医学系大学教育機構の構築		
連携校 ※下線は代表校	東京大学、日本大学、日本獣医生命科学大学、麻布大学		

### (総括評価)

**S**：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

### [コメント]

本取組は、獣医学教育でモデル・コア・カリキュラムが既に策定され、共通テキストの開発と参加型臨床実習のための共通試験の実施に向けた取組が全国規模で展開されている中、そうした枠組みに準拠しつつ、更に獣医学教育改革の推進に大きく貢献する、「高度な技術と知識を兼ね備えた、グローバルに活躍できる獣医師の育成」を目的としている。我が国の獣医学学生の約4割が在籍する4大学が協働する情報通信技術（ICT）を利用した画期的な取組であり、教育コンテンツの提供による他大学への波及効果が期待できる取組である。

教育改革については、大学間の資源を共有することでコア科目を確実に提供するとともに、各大学の特色を生かしたアドバンス科目（スキルラボ）を設置することで、教育の基盤を保証しつつ、創造性・先見性を担保する仕組みが整備されている点、ICTを活用した教育コンテンツのアーカイブ化と、対面型のスキルラボを組み合わせることで、効率的で効果的な教育が目指されている点において先進性が認められる取組であり、平成26年までに開催されたスキルラボにおいて当初計画以上の成果を上げており、高く評価できる。

なお、学習成果の評価については、獣医学共用試験CBTの実現が優先されているが、学生の形成的評価やスキルラボの評価方法についても、経験を蓄積して可視化することが望まれる。

ステークホルダーとの協働・評価については、新たな連携機関を追加し、より効果的な事業推進体制を整えている。評価については、自己点検とともに、獣医学関連諸組織の関係者による外部評価が適切に実施されている。

取組の実施体制・継続発展については、本取組は「Schoology」や「Moodle」など、コストのかからないLMSを活用することで事業終了後も各大学が容易に継続できるシステムを念頭に進められているほか、教職員の配置や養成についても検討が進められており、継続的な発展が期待できる。